



委員長

福田 武男
(千歳 RC・PG)

拡大委員会

1. 活動方針

国際ロータリーには 100 年前から原則として主な 3 つの役割があります。奉仕の心を広め、クラブ間の情報媒介機能を務め、ロータリークラブを設立し指導と助言を与えることです。

それ故に地区拡大委員会は、地区ガバナー・情報提供クラブ及び地区会員と連絡を取り合い、新たなロータリークラブ・衛生クラブ・ローターアクトクラブ設立の情報があれば、積極的に新クラブ設立に向けて支援していきます。

因みに、国際ロータリーでは 100 年以上に亘って続けられてきたロータリーの組織構造を大々的に変えるべく、2018 年から新たに「ロータリーの未来形成」というプログラムを水面下で進めております。

2019 年の規定審議会において、世界のローターアクトクラブを国際ロータリーに加盟させることから始まり、国際ロータリーや地区において彼らをリーダーとして抜擢し、ロータリアンの人頭分担金は毎年値上げするも、アクターの人頭分担金は安く抑えて（5～8 ドル）、若いローターアクトにはもっぱら奉仕活動に専念してもらうという戦略です。

2030 年に向けて、世界のローターアクトを 100 万人に増強し、高齢のロータリー会員は主に資金面で彼らをサポートするよう要請するということです。

2030 年までには現在の地区やガバナー制度は完全に廃止され、ピラミッド型の全く新たなロータリーの組織構造を水面下で、上位下達による方法で作ろうというかなり大胆な計画です。

世界の先進諸国における少子高齢化の中で、クラブの会員増強には限界があるとして、国際ロータリーでは 5 年程前から「クラブ拡大」、すなわち「クラブの会員増強」よりも、新たなクラブを設立するよう強く要請しております。

本年度も、我が地区 12 グループにおいては実質 5 クラブしかローターアクトクラブは活動していませんが、各グループに少なくとも一つのローターアクトクラブを作るよう要請しています。米国やオーストラリアでは、ロータリアンの退会が後を絶たないとのこと。

長年に亘って退会者が増え続けているのは、ロータリーに魅力が無くなったからであるとも言われております。

ロータリーの原点に立ち返り、全クラブで「ロータリー運動の基本」を見直すべきではないでしょうか。

ロータリーは「奉仕の心を学び」、その結果として「培われたその奉仕の心をもって奉仕活動を実践する」、この両輪でロータリーは前進して行くものではなかったでしょうか。

単なる「世界最大の NPO」になるのであれば、米山梅吉翁の「ロータリーは人生の道場」とか、「ロータリーは学びの場」という考えはどうなるのでしょうか。

『生涯ロータリアン』という文言は死語になってしまったのでしょうか。

このような国際ロータリーの計画が、会員であるロータリークラブの意見を聞くこともなく水面下で強引に進められて行くならば、今後 2030 年に向けて会員が 10 名前後のクラブが終結することはあっても、新たにクラブを設立することなど困難と言わざるを得ません。

2. 活動計画

- 1) 現在クラブがなく、新クラブ設立の条件を満たす地域があるか探査する。
- 2) 既存クラブがあっても、新クラブ設立余地のある地域があるか調査する。
- 3) 衛星クラブ設立を支援する。
- 4) E クラブについて情報収集をする。
- 5) 新形態のクラブの調査・研究をする。
- 6) RI のロータリー未来形成 (S R F) についての可能な限りの情報をまとめ、地区内クラブのフォーラム等で情報交換・意見交換ができるよう準備していく。



委員長
小山 司
 (札幌 RC・PG)

会員増強委員会

1. 活動方針

ゴードン R・マッキナリー R I 会長のテーマは「世界に希望を生み出そう」です。その中で会員の増強の最善の方法は「エンゲージメント（参加 / 関わり）」であると強調しています。国際ロータリー、地域リーダー、地区チームのすべてがクラブと関わりあう必要があり、また、ソーシャルメディアを通じた関わりによってブランドがより強固となり、多くの人にロータリーを知ってもらえる。また、政府・企業・その他の団体のエンゲージメントがあることで有意義なパートナーシップを築くことができる、とも述べています。

一方、松浦光紀ガバナーは、地区目標のひとつに「クラブの戦略計画を打ち立て、会員増強を実現しよう」を挙げ、重点項目として「女性会員比率 10% 達成」を掲げています。会員増強委員会として以下の 5 項目を活動方針とします。

1. クラブの会員増強活動の基礎資料となる職業分類表や入会勧誘資料の整備と、時代背景に適合した最新化を図る。
2. 男女共同参画社会の実現と次世代会員の入会促進を意図して、会員増強の対象を女性会員と 30 代、40 代を中心とした若い世代会員に重点化する。
3. 会員増強の基本がクラブ活動の活性化にあることから、地区クラブ奉仕委員会、公共イメージ向上委員会、ローターアクト委員会や RLI 委員会などとの連携を重視する。
4. 入会后 1 年以内に退会する新会員の数を減らすため、新会員研修小委員会との連携を意図する。
5. 会員増強活動の主力として会員増強委員であるガバナー補佐が対応する。

2. 活動計画

1. 2023 年 7 月 15 日、地区クラブ活性化ワークショップを開催する。
2. 各クラブの現状を知る目的で、職業分類表や入会勧誘資料の整備の状況についてアンケート調査を実施する。
3. 前年度に組織化した女性会員増強小委員会と若い世代会員増強小委員会の活動を開始する。
4. 会員増強促進パワーポイントを作成し、ガバナー補佐と増強小委員会委員の増強活動に役立てる。
5. ローターアクトクラブ設立に関する情報の提供を行う。



委員長
西方 洋昭
 (岩見沢 RC)

新会員研修小委員会

1. 活動方針

ロータリークラブに入会して 3 年未満が一般的に新会員と言われる対象者ですが、コロナ禍でロータリー活動ができなかった期間を考慮すると入会 3～5 年が新会員研修の対象者と考えます。その新会員の皆さんはロータリーライフを楽しめているのでしょうか。コロナ禍で親睦行事、親睦活動がことごとく中止となり、人と人がふれあう事を避けるような社会の風潮の中で、ロータリーの一番大切な親睦ができていない。面白みも、楽しみも感じられずにいるのではないか、その様なロータリーライフを楽しめていないメンバーの考える先には退会と言う二文字です。会員増強を一生懸命やっても退会者が増えてしまっは元も子もありません。

新会員研修小委員会では地区内各クラブ、各グループのニーズに合った新会員研修や新会員セミナー、時にはファイヤーサイドミーティングを企画・運営し新会員のロータリー仲間づくりのお手伝い、愚痴の言える友を増やす事でロータリークラブに入って良かったと思える一助となりたくと考えています。

2. 活動計画

- | | |
|----------|--|
| 4 月～7 月 | 各クラブ、グループの新会員研修意向調査（ニーズを調査する期間） |
| 8 月～5 月 | クラブ単位または複数クラブ単位での新会員研修、ファイヤーサイドミーティング
各グループ単位での新会員研修、宿泊研修、ファイヤーサイドミーティング
講師選定：地区研修委員会と調整、地区役員を多数起用
開催場所：各クラブ、各グループで選定 |
| 8 月～12 月 | 地区主催の新会員宿泊研修の企画検討 |
| 1 月～2 月 | 新会員宿泊研修参加者募集 |
| 3 月 | 新会員宿泊研修実施 |
| 4 月～6 月 | 検証、報告書作成 |



委員長

国立 金助
(函館 RC)

危機管理委員会

1. 活動方針

- (1) 地域社会のリーダーによって構成されるロータリーには、常に高い道徳性と社会的責任が求められることを自覚する。
- (2) 危機管理委員会は、危機について、その防止・解決のため必要な提言や適切な指導・助言を行う

2. 活動計画

- (1) RIJYEMの指導のもと、青少年の保護（保険）する為、危機管理総則にもとづき、危機管理規定を作成
- (2) RIJYEMの賠償責任保険の内容説明と啓蒙
- (3) 第2510地区危機管理基金規約の作成及び基金の常設
 - ①この基金は、第2510地区内外の災害や事故及びパンデミック等の危機発生時に対応するために必要な資金に充てることを目的とする。
 - ②前項のほか、次世代を担う青少年の健全育成を図るために地区を挙げて支援することを目的とする。



委員長

小里 学
(札幌南 RC)

文献資料室委員会

1. 活動方針

- ・ 新たな文献、資料を収集し保存
- ・ 所蔵している資料を各クラブが閲覧しやすい提供方法を検討
- ・ 時代に合った文献資料室の在り方についての検討

2. 活動計画

- ・ 電子化に備えた資料の整理を行う
- ・ 地区HPを活用した情報の提供
- ・ 所蔵目録の見直し



委員長
平川 香織
(札幌手稲 RC)

R L I 委員会

1. 活動方針

R L I (Rotary Leadership Institute) を通じて、クラブの活性化を！

R L I の目的に従い、ロータリアン一人ひとりがロータリーを学ぶ「きっかけ」を掴む機会を作り、クラブ活性化へ繋がる活動を行う。

2. 活動計画

- ① R L I セミナーパートⅠ～Ⅲ及び卒後コースの開催
 - ・ 受講者にとってより効果的なセミナーを目指し実施する。
 - ・ セミナー開催に向け、D L (ディスカッション・リーダー) 研修会を実施し、ブラッシュアップを行う。
- ② 組織運営の確立と強化
 - ・ セミナー開催における準備、情報管理および運営の確立と強化を図る。
 - ・ 参加者ならびに資料に関するデータ集積と管理体制の確立を図る。
 - ・ D L の増員・育成
- ③ R L I の広報活動の促進
 - ・ 会員への R L I の周知、及びセミナー受講への周知を積極的に行う。
 - ・ 地区HPおよびガバナー月信を利用したの情報提供、クラブ訪問や資料配布などを行う。



委員長
北川 好和
(札幌幌南 RC)

クラブ奉仕委員会

1. 活動方針

クラブの活性化のための、クラブに寄り添った活動！

「クラブが主体」をモットーに！

クラブの活性化を推奨していく上で、「多様性、公平さ、インクルージョン」(D E I) を受容し、様々なクラブ事業を実施する主体たるクラブの戦略計画の推進、会員基盤の強化及びロータリーの公共イメージ向上を図ることを目標とする。

地区公共イメージ向上委員会・地区ロータリー情報・ICT委員会との連携を図り、「クラブが主体」をモットーとしてクラブに寄り添った委員会活動を行う。

2. 活動計画

1. ロータリーの認知度向上を目指し、クラブの活動やロータリーのプロジェクトなど、一般の方に理解を深めていただき、またクラブへその手段の情報提供・広報を推進する。
2. 会長エレクトから提出頂いたアンケート結果をもとに、各クラブが何を必要としているかを把握し、ガバナー、ガバナー補佐、クラブ会長などへ必要な情報・資料等を提供する。
3. クラブが目標を立て、達成状況を確認するためのロータリークラブ・セントラル (MyRotary) の積極的な活用を推進。併せてロータリー賞の目標に向けた取り組みがクラブの活性化に繋がることを期待。
4. クラブにおける戦略計画の必要性を理解してもらい、クラブ内に3年後、5年後、10年後のクラブの未来ビジョンを検討する委員会や会議等の設置を推奨する活動を行なう。
5. MyRotary・地区ホームページ・Facebook を活用していただく上で、広報ハイブリッドカードを全会員に配布し、当カードの利用によりアクセスと活用の強化を推進する。
6. 関連2委員会との情報共有・連携を図り、目標達成に向けて、定期的な委員会開催を行う。
7. クラブ奉仕委員会及び2委員会への相談窓口 (E-mail) を利用し、各クラブからのご質問、ご要望に対して迅速な対応を行う。
8. 地区委員会どうしが親睦及び連携を深めることを目的とした情報交流会「第2510地区委員会クロスオーバー交流会」を毎月ZOOM開催。これは、各委員会が各種迅速な対応や垣根を超えた活動などへの新たな方向性を見いだす有効な足がかりとなることを期待し実施するものであり、また、ガバナー補佐を通じて各クラブへの迅速な委員会情報伝達の一助となることも期待している。



委員長
松倉 弘
(小樽 RC)

公共イメージ向上委員会

1. 活動方針

地域社会においてロータリーへの参加者の基盤を広げるために、ロータリーの公共イメージ向上と認知度向上の効果的な回り方について調査・検討を行い、ロータリークラブの活動について地域社会の人々に伝える手段の情報提供とサポート体制の構築に努める活動を行います。

2. 活動計画

1. ロータリー公共イメージコーディネーター (R P I C) 及び地区委員会と連携し、地区内クラブに公共イメージ向上の情報提供を行うためのセミナーの開催を行う。
2. ロータリーのブランドを構築するために MyRotary からロータリーブランドリソースセンターの活用を推進しロゴの正しい使い方を各クラブに発信する。
3. 各クラブや地区委員会のプロジェクトや活動を地域社会に向けて発信する広報活動戦略の手段のサポートを行う。
4. 地域社会における認知度向上の施策の研究、R I の公共イメージ向上戦略の把握を行い、地区委員会にインプットする。



委員長
長田 正文
(岩見沢東 RC)

職業奉仕委員会

1. 活動方針

職業奉仕委員会が各クラブ職業奉仕委員会にどのようなお手伝いができるのか、又クラブの職業奉仕委員会が地区委員会に何を望んでいるのかを知るために座談会を開催し、お互いの意見交換、及び職業奉仕委員会の勉強会、研修会を計画し委員、会員への職業奉仕の理念を学ぶ機会を設けることを心がける。

現在 R I が職業奉仕に関する関心度が少なくなって来ている中、もう一度ロータリーの原点である職業奉仕の位置づけを見直し、職業人、経営者としてのロータリアンが成すべき行動、理念が何かを伝えていく事に力を入れていきます。

2. 活動計画

- 1) 地区内クラブ職業奉仕委員会とガバナー補佐と連携を図り、座談会の開催を行い会員への職業奉仕の理念を浸透する。
 - 2) 研修会 (年 2 回) を開催し職業奉仕の理念を学ぶ機会を設ける。
 - 3) 他地区委員会と ZOOM にて勉強会を開催し委員会の向上を図る。
 - 4) 年 6 回委員会と勉強会を開催し委員会の向上を図る。
 - 5) 青少年委員会と連携を図り職業奉仕委員会として協力出来る事を模索していく。
- 以上の活動を 2023~2024 年度は計画していきます。



委員長

大坂 直人
(由仁 RC)

ロータリー情報・ICT委員会

1. 活動方針

My Rotary の登録奨励とその活用方法について、各クラブにより具体的事例を示しながらクラブに役立つロータリー情報を提供していく。

これまで続けてきたZOOM座談会を継続しこれまでとは違った切り口のメンバーによる座談会により交流と連携を強めていく。

2. 活動計画

- ① 各クラブの My Rotary サイトへの登録補助と活用のお手伝い
- ② ZOOM座談会の開催
- ③ 地区文献資料室との連携
- ④ ガバナー補佐へロータリー情報の提供と支援（文献・資料の整理と提供）
- ⑤ 各クラブのリモート例会・リモート理事会等開催の支援



委員長

高張 秀人
(札幌手稲 RC)

国際奉仕・VTT委員会

1. 活動方針

いよいよコロナ禍が明け、行動の1年とする。

タイ東北の第3340地区、タイ中央・カンボジア等の第3350地区と共同で実施している事業については、引き続き現状を把握し事業を検討する。

水と衛生や環境保全については、昨年度実施した手洗いスタンドやリサイクルBOXを、検証ツアーでの反省を活かし、現地で幅広く利用できるものに改良する。

検証ツアーは、現地で一緒に活動できるものを検討し、更に地区及びタイのロータクトと共に取り組めないか模索する。

地区内においては、各クラブの国際奉仕事業のヒヤリングをすると共に、委員がクラブとの懸け橋となり活動の潤滑油となるよう取り組む。

2. 活動計画

- ・地区協では、各クラブへのアンケートを実施し、現状把握及び事業への参画を伺う。
- ・11月予定の検証ツアーにおいて、昨年度までと違い検証で回るだけでなく、行動、体験する内容を模索する。
- ・地区ロータクトの検証ツアー参加への障壁を確認し、数名でも良いので、青少年奉仕委員会、ロータクト委員会と連携し実行へこぎつける。
- ・各クラブで実施している国際奉仕事業については、年度の報告時に一緒に掲載し、地区内に活動を理解していただく。
- ・各委員が、自グループの国際奉仕活動の活性化のため、各クラブの国際奉仕委員長と連携を密にし、課題及び取り組みサポートを実施する。
- ・他地域についても検討する。



委員長

佐々木 雅之
(札幌南 RC)

社会奉仕委員会

1. 活動方針

- ・コロナ禍で活動がほとんどできなかったが、これから地域と密着し元気な社会になるようお手伝い致します。
- ・地域の若手活動家、起業家をご紹介しますロタリーと結びつけたい。
- ・地区内のクラブの社会奉仕活動をご紹介します、各クラブの抱えている悩み、課題等を洗い出し地域に密着した社会活動ができる元気なクラブ作りのお手伝いを致します。

2. 活動計画

北海道胆振東部地震 被災3町村支援事業

名称 浜厚真清掃支援事業

内容 サーフィン大会など全国から年間のべ6万人の利用者がある自慢の浜厚真。2018年の震災の影響で海岸線沿いは、流木等のごみがいまだに多く散乱している状態でボランティアによる清掃では、まったく追いつかないためロタリーとして応援し厚真町の復興の象徴として地域内外の人に見ていただきたいと思っております。(当初予定が2023年7月でありましたが現地、諸条件の都合で今年度6月に急遽、実施することになりました。)

被災地3町村の若手活動家、起業家の皆様をご紹介しますロタリーの活動と結びつけながら社会奉仕サミットという形で地域にそしてロタリー活動に刺激のあるような活動を進めてまいります。



委員長

西村 英晃
(恵庭 RC)

地区青少年奉仕委員会

1. 活動方針

青少年に関わる事業を通して未来のロータリアンやロタリーに理解のある人材、地域のリーダーを育成できるような意義ある機会となるよう努める。

また、青少年に関わる事業がハラスメントを含めた危機管理を意識し時代とニーズに合った安心安全な事業であるよう努める。

2. 活動計画

1. インターアクトクラブ新設に向けた提唱クラブへの支援。
2. 青少年交換事業の活性化への協力、クラブへの支援。
3. ローターアクト委員会への協力。
4. RYLAセミナーの支援と参加者増への協力。
5. 危機管理委員会との連携による情報共有、問題発生時の対応。
6. 各クラブの青少年奉仕事業についてのサポート。
7. 例会での卓話。
8. 委員会の開催を通して情報共有と連携を図る。



委員長
池田 達昭
(札幌南 RC)

青少年交換委員会

1. 活動方針

世界中の青少年が本プログラムに参加をすることで異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会をもたらし、世界平和に貢献とその実現に向けて交流を深めることを目指します。

帰国生は学友として（通称 ROTEX）、スポンサークラブとのつながりを持続させ、地域社会への奉仕活動に参加することで報いることを推奨します。

世界への理解を通じてコミュニティを築くロータリーでは、世界の若者たちが、勇気を出して新しいことに挑戦し世界観を広げています。母国から遠く離れた場所でホストファミリーと一緒に新しい生活を体験し影響をもたらすことができます。生涯の友達とたくさんの思い出を作り大きく成長して帰国します。将来もずっと貴重な体験が活かされていくよう関係の持続性を大切にしていきます。

2. 活動計画

1. 高校生が対象のため、学校年度に合わせ募集要項を3月に送付します
2. ロータリアンの子女が唯一参加できるプログラムであることを奨励します
3. 派遣・受入ともに2名以上の実施を推進します
4. 受入学生を第2510地区全体で歓迎し短期長期休暇などを利用したホストクラブ以外のクラブで一定期間ホームステイを体験してもらい、その結果、本プログラムへの理解を深め今後交換学生数の拡大を目指します
5. 学友（通称 ROTEX）活動のさらなる活性化を図ります
6. RIYJEM（一般社団法人 国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構）と連携を取り、プログラムが円滑に進むよう務めます
7. 危機管理のためのスタディを推進します



委員長
入井 浩樹
(滝川 RC)

米山記念奨学・学友委員会

1. 活動方針

① 米山奨学生が世話クラブとそのロータリアンとの友好的関係を築き上げるようお手伝いをすると共に日本独自の米山奨学事業の重要性を各クラブに伝え**米山記念奨学事業の設立趣意を理解していただく。**

② 米山学友会の支援を行い、ロータリーとの繋がりをより親密にする。

③ 米山寄付目標は1名当たり普通寄付4,000円、特別寄付12,000円合計16,000円とする。

2. 活動計画

1. 委員会内の組織再構築を考え活性化を図る。
2. 米山記念奨学会に関する情報を専属の担当者を決めHPおよびガバナー月信を利用し地区内の会員へ提供と広報活動を行う。
3. 指定校の見直しと指定校に対し積極的な訪問活動を行い多様な奨学生候補の推薦依頼を行う。
4. 世話クラブの選考とカウンセラーへの情報提供を積極的に行う。
5. サブ世話クラブの選考を行い米山奨学事業の必要性と重要性を伝える。
6. 専属担当者から奨学生に対してガバナー月信への寄稿を求める。
7. 米山学友との連絡を維持し、親睦に努めると共に情報の共有を図る。
8. **米山学友は第2500地区と第2510地区が一つエリアにも関わらず全く交流が無いので積極的に親睦を深める**
9. **第2510地区のロータリークラブ、米山記念奨学委員長様へ年1回の研修会を行い米山記念奨学事業が何故必要なのかの理解を深めて頂く**



委員長
齊藤 朋博
(札幌南 RC)

RYLA委員会

1. 活動方針

RYLAは「ロータリー、ユース、リーダーシップ、アワード」の名の通り、青少年指導者養成プログラムであります。ロータリーに関わる青少年、インターアクト、ローターアクト、交換留学生、奨学生を始め、地域の若手リーダー候補者、各企業のリーダー候補者など、様々な若者と横断的に関わりを持てるのがRYLAの良い所である。

RYLAの目的であるリーダーシップを発揮できる若者を発掘し、非日常の自然の中で仲間と出会い、育み合うためのプログラムを検討・企画しセミナーを開催する。

RYLA学友と共にセミナーの企画および運営を行い、RYLA 修了後もロータリークラブとの関わりをもって頂く事で、ロータリーファミリーとして継続的な関係構築を目指す。

2. 活動計画

2023年	7月～9月	RYLAプログラムの企画立案、開催時期、場所の検討
	9月	RYLA学友の集い開催
	10月～12月	セミナーの内容、講師の選定
2024年	1月～3月	プログラム、予算など確認、受講者募集開始
	4月	参加ロータリアン、受講者の確認
	5月	RYLAセミナー開催（2泊3日で開催予定）

1年を通じてRYLA学友会の組織づくりとRYLAの広報に務めます。



委員長
福見 隼人
(札幌東 RC)

インターアクト委員会

1. 活動方針

1. 地区インターアクト委員会のプログラムである海外研修と年次大会を充実したものにすべく検討する（今年度は海外ではなく国内で実施予定）
2. インターアクトクラブ及びクラブの所属する高等学校にロータリークラブの奉仕の精神を理解したうえで活動してもらう。
3. 地区内にインターアクトクラブの情報を発信し、提唱クラブ以外のクラブにもインターアクトクラブを理解してもらい活動に協力してもらう。
4. 新しいインターアクトクラブの設立に向け情報収集と情報提供をする。

2. 活動計画

1. 年次大会の開催（2024年6月予定）
2. 研修旅行の実施（2023年7月31日～8月2日予定 2泊3日 東北）
3. 地区大会参加の奨励（並行プログラム等）
4. 年4回の地区委員会の開催
5. インターアクトクラブ間の情報交換・交流の推進
6. インターアクト卒業後のローターアクトクラブ入会促進およびローターアクターと共同例会の計画
7. 学友委員会への協力
8. 新規インターアクトクラブの設立支援（現在、恵庭ロータリークラブ・新札幌ロータリークラブ・札幌西ロータリークラブ・小樽南ロータリークラブ・浦河ロータリークラブが関心あり）



委員長
松原 重俊
(砂川 RC)

ロータリー財団委員会

1. 活動方針

地区ロータリー財団委員会（DRFC）は、地区の財団補助金事業及び寄付推進により多くの会員が参加するよう啓蒙活動の手伝いをする。

ロータリー財団とクラブ会員をつなぎ、地区補助金等のロータリー財団資金のさらなる活用を推進しながら、地区財団資金推進委員会とともに、活動の元となる寄付推進、「ゼロクラブ0」の達成、冠名基金の創設等、資金寄付推進（ファンドレイジング）に注力する。

これまで行われてきた種々の財団プログラムを、財団補助金委員会、ポリオプラス委員会、財団奨学金・平和フェロー委員会、国際奉仕・VVT委員会および社会奉仕委員会の各地区委員会とともにクラブへ紹介し、ロータリー財団への寄付が有効に使われていることを知ってもらう。

2. 活動計画

1. 財団委員会および関連委員会を適宜開催する。
2. 財団関連委員会と協力して、各クラブで行われる財団プログラムの実施に協力する。
3. 学友委員会と協力し、財団学友の積極的な財団プログラムへの参加とロータリークラブへの入会を推進する。
4. 各クラブからの卓話の依頼に積極的に対応し、ロータリー財団を理解してもらう機会を逃さず活用する。
5. ロータリー財団とクラブをつなぐ地区補助金委員会、ポリオ根絶の推進を目指すポリオプラス委員会、日本だけでなく世界にとっての有能な人材を育てる財団奨学金・平和フェロー委員会、様々な苦境にある世界の子供たちへの人道支援奉仕活動を推進する国際奉仕・VVT委員会などの関連委員会の活動を通して、ロータリー財団を知り理解する機会とする。



委員長
大川 武志
(恵庭 RC)

財団補助金委員会

1. 活動方針

1. 地区補助金の適正な管理と運営を行う。
2. 地区補助金の利用について広報を行う。

2. 活動計画

1. 地区補助金の募集。(締切2023年4月30日)
2. 地区審査会の実施。
3. ロータリー財団への申請。
4. 各クラブからの報告。
5. ロータリー財団への報告。
6. 各クラブに補助金の利用事例を広報する。
7. 委員会の実施

何かご質問等ございましたらお気軽に財団補助金委員会専用メールアドレスにご連絡下さい。
(hojokin2510@gmail.com)



委員長
大友 累
(札幌東 RC)

財団奨学金・平和フェロー委員会

1. 活動方針

国際ロータリーとロータリー財団の指針に沿って、ロータリー財団の奨学生として・日本国の親善大使として相応しい奨学生を海外に送り出せるよう、研修および選考のシステムを構築し、ロータリーの重点分野や世界平和を通じて活躍し未来に繋いでいけるようサポートに努める。

更には、留学期間終了後も様々な支援や交流の機会を設ける。地区での報告の機会等を頻繁に設け、地区内ロータリアンの皆様への財団奨学金の啓蒙活動にもつなげていく。また、学友となった奨学生達が将来ロータリアンになっていただけるよう努めていく。

2. 活動計画

- ①募集選考準備
- ②財団への申請準備
- ③地区出発者への壮行会準備
- ④候補者の募集選考・面接
- ⑤選考された候補者への研修、説明会（今後の予定説明・誓約書の授受等）
- ⑥壮行会準備・実施
- ⑦報告・レポートの確認と配信
- ⑧帰国した奨学生による報告会 プレゼンテーション（学友会への協力）
- ⑨各クラブでの卓話や地区行事での財団奨学金についての広報・公共イメージ向上活動
- ⑩奨学生と地区委員をつなぐメーリングリストの開設（奨学生同士・委員の交流の促進）
- ⑪定期的なオンラインミーティングの開催（奨学生同士・委員の交流の促進）
- ⑫委員会メンバーの親睦の親睦・連携を推進するため、委員会メンバー・奨学生を対象とした交流会（懇親会）の開催



委員長
鈴木 抄織
(札幌大通公園 RC)

学友委員会

1. 活動方針

1) ロータリーファミリー（インターアクト、ローターアクト、青少年交換、ライラリアン、ローテックス、財団奨学生、米山奨学生）及び VTT を対象に、これらの学友とロータリーとのつながりを再構築することを目的に、学友会活動を支援・協力する。

2) 学友に対するロータリアンの理解向上のための活動を推進する。

3) 学友とロータリーをつなぎ、学友がロータリアンになることを推進する。

2. 活動計画

1) 学友委員会を定期的に開催する。

2) 学友が集まる「学友交流会・帰国報告会」を開催し、学友相互の親睦と理解を図る。

3) ロータリー学友ニュースレターを発行する。

4) 学友に対しクラブ例会での卓話を推進する。

5) 日本ロータリー学友会との交流を推進する。

6) 学友会の名簿の更新を行う。

7) 学友会の活動を支援し地区内のロータリークラブとの交流を推進する。



委員長

志田 勇人
(札幌南 RC)

ポリオプラス委員会

1. 活動方針

世界からポリオを根絶することを使命とし啓蒙と更なる寄付の増進を目指して活動していく

2. 活動計画

- 1、会員一人30ドルのロータリー財団ポリオ根絶寄付目標について、会員の理解と協力を促進するとともに、年間1,500ドル以上の寄付によりクラブ表彰を受ける事を広報し、地区目標達成に努力する。(会員1人30ドル達成のクラブに対してポリオ委員会より達成記念バナーを贈呈する)
- 2、世界のポリオ撲滅活動の近況情報を地区ホームページに掲載し、また卓話や研修などを通じて地区内の理解を深めることに努める。
- 3、ローターアクトと連携してポリオ根絶活動を行う。
- 4、地区大会においてポリオ委員会ブースを設置、ポリオ根絶活動を推進する。
- 5、グループやクラブのポリオ根絶活動のサポートの一つとして、ポスターや各種グッズを作成し、各クラブに配布・販売する。
- 6、地区内で行われた奉仕活動の動画や静止画を募集し、冊子やCDに記録し各クラブに配布する。
- 7、上記の活動を遂行するためポリオ委員会を定期的に開催する。
- 8、世界ポリオデーに合わせ募金および広報活動で具体的に何が出来るか検討していく。



委員長

大川 武志
(恵庭 RC)

ロータリーカード委員会

1. 活動方針

1. ポリオ根絶に貢献するためにロータリーカードを推進する。
2. ロータリーカードの意義を広報する。

2. 活動計画

1. 全国のロータリーカード推進委員セミナー(年4回)に参加をする。
2. 各カード会社との情報交換をする。
3. PETS財団セミナーや財団・地区補助金管理セミナーでの広報活動。
4. 地区大会でのブース出展。
5. 地区委員会の開催
6. ポリオプラス委員会との連携



委員長
黒川 篤
(札幌北 RC)

財団資金推進委員会

1. 活動方針

- ・財団に対する理解の推進による寄付の満足度向上を目的として、ロータリー財団および財団寄付プログラムの広報に努める。
- ・ロータリー財団委員会を中心に、財団関連委員会とも十分に連携し会員に判りやすい委員会運営に努める。

2. 活動計画

1. 年次寄付を年間一人150ドル以上
2. ポリオプラスへの寄付を年間一人30ドル以上
3. 第2510地区は財団寄付ゼロクラブを0クラブとする
4. PHSの増員



委員長
齋藤 聡
(岩見沢 RC)

ローターアクト委員会

1. 活動方針

既存のローターアクトクラブの活動に助言などを行うことにより、より活発な活動をサポートし、奉仕活動や親睦を通して広く認知してもらう事、および新しいクラブの設立を目的と考えている。

また2022年7月から新しくなるローターアクトの身分について周知を図り、スポンサークラブとの情報の共有化を行う。

2. 活動計画

- ・ 地区ローターアクトクラブは様々な地区行事を計画しており、それらの開催の助言やアドバイスをを行うと共に地区行事並びに業務の在り方について検証し負担感の解消に努める。
- ・ ローターアクトとロータリアンの連携のサポートをすることによって、地区内のロータリアンにローターアクトの活動を広く認知してもらう。
- ・ 2022年度より、ローターアクトのあり方が大きく変化することに対応し、現状のローターアクトおよびクラブの実態に即したローターアクトのあり方を模索する。



委員長
羽部 大仁
(札幌南 RC・PG)

立法案検討委員会

1. 活動方針

第2510地区のメンバー（会員）に3年に一度開催される規定審議会・決議審議会について周知し検討して貰うように活動したい。

2. 活動計画

6月までに締め切りになる決議案について各クラブからの提案について広報活動を通じて促進する。

(決議案は毎年6月30日締め切り)

3年後の規定審議会に向けての提案についても委員会で提案を地区内クラブに促進する。